

2018年12月

## プログラミング教育における小学生を対象とした教育方法について考察する

経営学部 経営学科 堀田ゼミ  
B5R11130 野並 将志

### 【卒業論文概要】

2020年から義務教育でプログラミング教育が必修化されることが決まっている。その影響もあり、近年ではプログラミングを学べる学習塾が非常に増えている。著者もその学習塾で働いており、習い事としてだけでなく、小学校で実施されるプログラミング教育が今後どのように行われるのか興味を持ったのが、研究の始まりである。

本論文の目的は、プログラミング教育における小学生を対象としたどのような教育方法が適切なかを考察するものである。文部科学省が小学生へのプログラミング教育で狙っている3つの柱がある。まずは知識と技能の習得。次に思考力、判断力、表現力のいわゆるプログラミング的思考。最後に、コンピューターを活用したより良い社会にしようとする態度を育むこととされている。

本研究では、公立小学校をモデルとして考え、文部科学省が狙っている3つの柱を軸に、学習塾での教育方法、小学校が実施予定の教育方法、小学校での実践例を比較しその結果、3つの柱を最大限に伸ばすことができる教育方法とは何なのかを検討した。